

米の生産者の方にはお願いです！

栃木県は 5年産米も主食用米からの作付転換が必要です！

- 令和4年産米は、栃木県内では、主食用米から他作物への大規模な作付転換が進められました。しかし、それでも需要に見合った生産とはなっていません。
 栃木県産主食用米の令和4年6月末民間在庫比率は、3年産米の生産量が前年産より6%減少した中で、主要産地で最も高く(42%)なっています。
- 人口減少などにより、米の需要は毎年約10万トン程度減少してきており、今後も継続して減っていく見通しです。需要に見合った生産を行うためにも、主食用米から麦・大豆・野菜などの定着性・収益性の高い品目への作付転換が求められています。

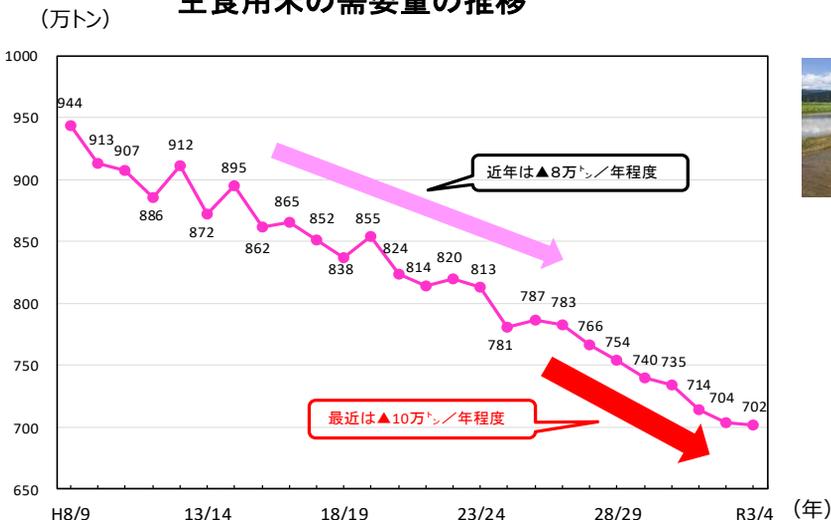
主産地の民間在庫の状況(令和4年6月末)

単位:千玄米トン

	3年6月	4年6月	参考(生産量との関係)				
	① (千玄米トン)	② (千玄米トン)	対前年比 同月差 ③=②-① (千玄米トン)	対前年比 同月差 ④=②/① (%)	3年産米 生産量 ⑤ (千玄米トン)	対2年産米 生産量比 ⑥ (%)	対生産量 在庫比 ⑦=②/⑤ (%)
北海道	200.4	196.0	▲ 4.5	▲ 2.2%	527.7	▲4.7%	37.1%
宮城	135.9	126.2	▲ 9.7	▲ 7.1%	333.7	▲6.3%	37.8%
秋田	128.8	136.0	+7.2	+5.6%	422.0	▲6.9%	32.2%
山形	109.7	107.3	▲ 2.4	▲ 2.2%	343.7	▲2.2%	31.2%
福島	114.3	94.4	▲ 19.9	▲ 17.4%	303.6	▲8.7%	31.1%
茨城	58.3	59.9	+1.6	+2.8%	333.4	▲4.1%	18.0%
栃木	115.0	116.6	+1.6	+1.4%	277.8	▲6.0%	42.0%
新潟	125.2	106.9	▲ 18.2	▲ 14.6%	538.5	▲9.6%	19.9%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」及び「作物統計」を基に関東農政局栃木県拠点で作成。

主食用米の需要量の推移



需要に応じた作付転換をお願いします。



麦・大豆や高収益作物など、より定着性・収益性の高い作物への転換をご検討ください。

- 3年産米・4年産米では、大規模な作付転換が行われましたが、**作付転換の多くが飼料用米により実施**されました。（作付転換面積の3年産96%、4年産72%）
- 一般品種による飼料用米は、定着性が低く米価の動向によっては直ぐに主食用米の作付けに戻り、産地づくりや経営の安定にも影響を与えることから、**麦・大豆や野菜などの定着性や収益性が高く需要のある品目への転換**をご検討ください。

たとえば大豆

- 大豆（食用品）の需要量は、**近年、増加傾向で推移**しています。
- 実需者アンケートの結果でも、**今後の国産大豆の需要は堅調となる見込み**です。
- これらを反映して、**国産大豆の入札取引価格は近年上昇傾向で推移**しています。
- 大豆は、**需要量の90%以上を輸入に頼っており、ウクライナ等の世界情勢を踏まえた食料安全保障の強化のためにも、国内での生産を強化する必要があります。**

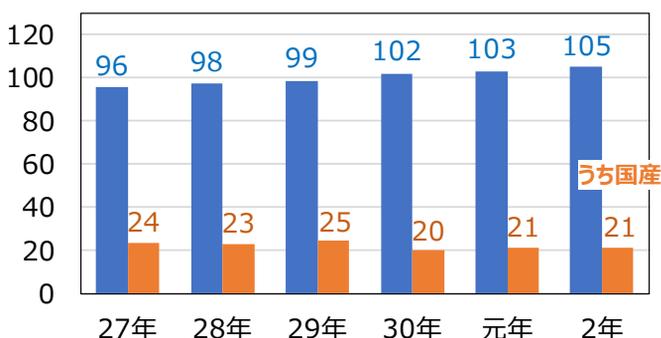
【食用大豆需要見込み（実需者アンケート）】

※元年基準

	3年産	うち国産	7年産	うち国産
豆腐・豆乳	111%	109%	117%	118%
納豆	109%	109%	118%	117%
煮豆	104%	97%	111%	102%
味噌	104%	104%	106%	108%
醤油	100%	104%	105%	107%
その他	104%	101%	109%	108%

【大豆（食用品）の需要状況】

(万ト)



【国産大豆入札取引価格】

(円/60kg税抜)



資料：農林水産書調べ

麦・大豆収益性・生産性向上プロジェクト

麦・大豆の需要を捉えた生産の推進により国産シェアを拡大するため、作付の団地化やブロックローテーション、営農技術の導入、農業支援サービスの活用等による産地の生産体制の強化を支援します。

- 先進的な技術を新たに導入する面積に対して15,000円/10aを上限として定額支援
- 生産性向上に必要な機械・施設導入等を支援（補助率1/2以内）



【問い合わせ先】

関東農政局栃木県拠点（栃木支局）
028-633-3314